

2018 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	小野 隆生
最終学歴	学 位	専門分野
慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程 単位取得満期退学	経済学修士	経営学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

社会についての学問的な話、いわば固い話を聞いて理解する能力、自分の考えを人に説明するための論述能力が鍛えられていない学生が目につくので、自分の生きる社会について彼（女）らに関心を持って貰い、少しでも「真面目に」自分の能力を鍛えてそれを活かすことの社会的責任に気づかせることが目標である。

(計画)

導入部において、学問が本の中の話ではなく自分の身近なところにくらでも転がっている話であることをクイズなどを通して実感させる。講義を本格的に進める時期には、「難しい話を簡単に」のグレドを実践すべく、図表を活用してイメージを抱かせながら理解させるようにする。また、また、重要な用語については、毎時間クイズ形式の問題を出して全員がすぐに正答できるまで繰り返す予定である。

○担当科目（前期・後期）

（前期）経営管理論Ⅰ、生産マネジメント論、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ

（後期）経営管理論Ⅱ、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ

○教育方法の実践

統計表などを参照しながら講義を進めるためにも、必要に応じてプリントを自作し、受講者に配布した。また、重要な用語を確実に理解させるために、何度も小テストを実施した。

○作成した教科書・教材

必要に応じて、講義で参照する統計表や論理の展開を示す図表をまとめたプリントを配布した。

○自己評価

日本企業の株価の特徴(配当性向、株価)を示そうとしたが、適切な資料を紛失し、再度探し出すのに手間どった。有用な資料を確実に保管することの重要性を再認識した。

II 研究活動

○研究課題

日本型経営システムの限界と今後

○目標・計画

(目標)

電気自動車の開発が進む欧州や中国に比べて日本の電気自動車開発、生産は遅れが目立つ。電気関係モジュールの性能、価格が競争力に大きく関わってくるので、今後の自動車産業と電気産業との関わり方如何で従来の日本型経営システムにどのような影響が生まれるかを考えていく。

(計画)

昨年度はトヨタ、日産の九州工場に聞き取り調査を行った。上記研究目標のための資料が少ない現状においてはまず日経等の新聞記事と調査（記事の真偽確認）を中心にする以外にない。もちろん、それ以外の資料探しと現状理解の方法も使っていきたい。

○2011年4月から2019年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・十名直樹、小野隆生「日本企業の現場管理制度」労務理論学会編『経営労務事典』晃洋 書房、2011年

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

日本経営学会

○自己評価

追再試期間と経営学会全国大会の日程が重なっており、大会に参加できなかったことが悔やまれる。

III 大学運営

○目標・計画

（目標）

基礎演習、総合演習の担当者会議、教育個別懇談会で演習担当者としての責任を果たしたい。

（計画）

総合演習の参加学生のなかにGPAの低い学生が多いので、個人面談等を重ねていくつもりである。

○学内委員等

○自己評価

大学運営の目標は達成した。

IV 社会貢献

○目標・計画

（目標）

就学機会に恵まれていない東南アジアとアフリカの子ども3人のスポンサーをしている。機会があれば、その他の分野でも積極的に貢献したいと考えている。

（計画）

上記した子ども3人のスポンサーを継続する予定だが、それ以外に現段階では具体的な事案がない。

○学会活動等

○地域連携・社会貢献等

○自己評価

暑さのために、7月だけで二回倒れるなど、健康面での不安がすべてにつきまとい、自分で納得できるだけの活動は実践できなかった。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

韓国語検定 5 級合格

VI 総括

大学の専任教員を 32 年間務めたが、最後の 4 年間は健康面での不安を抱えながらの教員生活であった。特に 2018 年度はときに踏ん張りながら板書するなど、講義がきつかった。リタイア後は、健康に留意しながらも、やり残した研究に力を注ぎたい。

以 上